

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270400821		
法人名	株式会社 武上		
事業所名	グループホーム ノーマライ心の花御成		
所在地	千葉県若葉区下田町1263-56		
自己評価作成日	令和3年1月31日	評価結果市町村受理日	令和3年8月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	令和3年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・法人の理念である『明るく楽しく笑顔で共に暮らす そして人として心の花を咲かそう』を、スタッフ一人一人が理解し、体現に努め、入居者様に対する日々のケアに従事している。入居者様の笑顔を引き出す事は基より、事業所名にもなっている『ノーマライゼーション』の由来のように、障害の有無に関わらず、入居者様お一人お一人のペースに合わせ、入居者様に寄り添いながら、これまでの生活を出来る限り継続していけるよう、日々のケアを提供している。家庭的な雰囲気の中で、入居者様とスタッフの顔なじみの環境を大切にし、その方々の認知症症状に合わせた、柔軟に想いに寄り添うケアを心掛けています。事業所を開設し、約17年が経過し、ご本人・ご家族様の希望に合わせ、看取り対応も行っており、自然な最期を迎えられた方もおられる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である「明るく楽しく笑顔で共に暮らす」を職員間で共有し実践に繋げられるようにしており、一人ひとりに寄り添うケアの実現に向けて努めている。看取りを希望する場合には、丁寧に説明し、利用者、利用者家族が納得できる終末期になるように支援している。食事は職員が献立を作り、近隣で買い物をして調理している。利用者も盛り付けなどできる事を職員と一緒にこなうなど、自立支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく楽しく笑顔で共に暮らす」と各ユニットに掲げ、新人職員にはオリエンテーション時に周知している。既存職員には、ミーティングや研修時に再確認出来るようにしている。	地域と共に生きるホームを目指し「明るく楽しく笑顔で共にくらす」を理念に掲げ、各ユニット見やすいところに掲示している。新任研修で周知し、現任者にはミーティングや毎月の会議で共有して実践に繋げるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の夏祭りや、消防訓練に参加したこともあったが、今年度はコロナ禍で感染予防の観点から、参加することを控えている。	代表者が地域に出向いて、ホームに対する地域の希望を聞き取っている。自治会会長、民生委員から情報提供を得て、地域の夏まつり、消防訓練に参加しているが、今年度は感染予防のため実現できていない。民生委員がホームの見学を希望する地域の人を連れて見学に来たこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民も参加できる行事の企画など行っていたが、今年度はコロナ感染症対策の為、開催出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議を開催し、介護保険の変更事項やホーム内の取り組み、ヒヤリハットや事故の事例などの報告、意見交換を行っている。	自治会長、地域住民、民生委員、地域包括支援センター、家族会会長、家族の参加で、2か月に1回開催している。今年度は、コロナ禍により開催できていない。	運営推進会議を集まって開催するのは難しい状況であるが、書面のやり取りなど工夫しながら、各方面の意見を吸い上げることができるとよいと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	代表者や管理者を中心に、行政担当者(特に介護保険事業課)や地域包括支援センターの担当者との情報共有や、意見交換等を行い、適正な事業所運営に反映させている。	行政担当者、地域包括支援センター職員と密に情報交換をしている。また、市の担当者とは新型コロナウイルス予防や災害対策についても相談している。提出書類は郵送ではなく、直接持参して情報交換するなどしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の声かけ一つにも注意してケアを実践している。入居者様個々のパターンに合わせ、どんな事が身体拘束に当たるのか、具体的にミーティングで話し合っている。	身体拘束をしないケアについて研修を実施し、具体的な事例を基に、職員間で意見交換している。身体拘束廃止委員会を3か月に1回開催している。スピーチロックも身体拘束になることを具体的な言葉で説明するなどして、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や、資料の回覧等行っている。また前項の通り、入居者様個々のパターンに合わせどんな事が虐待に当たるのか、ミーティングで話し合っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者、管理者や計画作成担当者を中心に、その方に合った制度や支援事業等について、必要に応じて適切に結び付けていけるよう法人内で検討、情報共有を重ねているものの、学習機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に必ず、利用契約書や、重要事項説明書の十分な説明を行っている。利用開始にあたり、不安や疑問をお聞きし、ご理解頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度はインスタグラム、公式LINEアカウントの開設を行い、職員、ご家族様が相互に気軽にお話できる場を設けた。	コロナ禍で面会ができなくなっているためSNSを活用して、家族との意見交換を試みている。家族にも好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に意見を言える職場作りに努め、提案があった時は、実現できるように一緒に考えている。毎朝のミーティングやミニ会議にて意見の吸い上げを行っている。	ミーティングや会議で職員が活発に意見を出しやすいように、日頃からコミュニケーションを大切にしている。提案があった場合は、必ず一緒に考えて結論を出すことにしている。また、法人代表者が職員と面談しており、職員の育成に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者自ら各職員とコミュニケーションを取り、各々のスタッフの就業意欲・実績だけでなく、将来のヴィジョンやスキルアップ等、キャリアパスの整備に力を入れ、意欲的に就労出来る職場環境の構築に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護未経験者(無資格者)から、中途採用者(有資格者)まで、様々な人材に対し、より実力を発揮出来るよう各々の成長スピードに合わせた人材育成を実施すると共に、OJTに力を入れる事で、離職者を少なくしスタッフが定着出来る環境作りに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にあり、現状交流ができていない状況にはあるが、代表者が関係を持った同業者の話を共有し、コロナ以後の交流実現に向けて、代表者が同業者と打ち合わせを行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安を軽減を最小限に出来るよう、初回面接を含む介入時から入居者様及びご家族様に積極的に情報収集や傾聴を行い、ニーズ等の把握に努める事で、安心して暮らせるような環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接を含む介入段階からご家族様と連絡を密に取り合い信頼関係の構築に努め、不安の軽減等に繋がられるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学時や入居前に情報収集しつつご本人のADLや認知症状の状況を再確認し、現況のご本人様の状況に合ったサービス提供に繋がられるよう、アセスメントを実施し、初期段階の適正なサービスに繋がっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様の出来ない所を補う事で、ご本人様の主体性を尊重したケアを実践している。また、入居者様は人生の先輩として教えて下さる事も多く、お互いに助け合う関係性を築くことが出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	文書での状況報告だけでなく、必要があった際は個別に電話連絡差し上げている。今年度はビデオ通話に対応できるようになったので、ご家族様からのご希望で連絡差し上げる機会が増えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にあり、面会謝絶にはなっていますが、馴染みの人や関係者が来訪しやすいよう、御家族様から情報収集をしつつ、職員が関係構築・継続に努めている	コロナ禍で現在は難しい状況だが、家族との外出、外泊が出来るように支援している。また、友人、知人の電話の取り次ぎや来訪も歓迎している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の特性を把握し、気の合う方同士で交流できるように座席を配置したり、全員で和が持てる活動をすることで、共同生活が円滑になるように支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様との関わりを断つことなく、情報の共有を行ったり、退去後の生活の場の紹介や案内等、スムーズに次のサービスに繋げていけるようサポート体制を敷いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から一人一人のご意向を引き出せるように、言葉かけを工夫している。コミュニケーションが困難な場合でも、その方の立場に立って自己決定出来るよう、職員が話し合いを重ねている。	職員は日々、コミュニケーションを取りながら利用者の思いや意向を聞き取っている。家族から情報をもらうこともある。把握した情報はタブレットや書面で記録し、介護計画に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に聞き取りする他、入居前の暮らし方を専用のシートに記入して頂き、生活歴や環境などを把握するのに役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル、排泄、水分量を記録し把握している。状態の変化、気付いたことがあれば全体に申し送り、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日、ケアプランに沿ってミニ会議(ケア会議)を行い、ケアプランが実施されているか、実情に合っているか検証を行っている。そして日々の検証を計画作成に反映している。	利用者、家族の意向を汲み取り、記録や会議での職員の意見をもとに介護計画を作成している。タブレットを活用し、職員同士が情報を共有するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その場で気づいた事等をミニ会議やカンファレンスにて意見交換したり、申し送りとしてノートに記載するだけでなく、リアルタイムで電子機器を駆使し共有していく事で、職員が共有できるようにしている。また、随時検証も行なっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランに沿ってサービスを提供しているが、それだけに縛られないよう、その時々生まれるニーズへ柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の子育てリラックス館のクリスマス会や運動会に呼んで頂いていたが、今年度は感染予防の観点から参加できていない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族様の希望に応じ、入居前からのかかりつけ医に受診している場合も受診に同行し連携を図っている。特に希望が無い場合は、定期的な訪問診療だけでなく、何かあれば24時間体制で適切な医療を受けられるように支援している。	利用者や家族の希望に応じて、かかりつけ医を受診している。受診の際は家族対応としているが職員も同行し、利用者の様子や変化など医師に伝えている。ホーム協力医の訪問診療を受けている利用者もいるが、看護師が立ち合い、医療との連携が取れるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が定期的に健康チェックを行っており、職員や入居者様は気になったことを気軽に相談できるようになっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院先の医療機関と連絡をし、情報が途切れないようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご本人様とご家族様のご意向をお聞きし、病院、看護師と連携し出来る限り、ご希望に沿って支援する体制になっている。また急変時・終末期には再度ご家族様にご意向を確認し、入居者様の状態に合わせて柔軟に対応している。	看取りを希望する利用者には、重度化対応・終末期ケア対応指針をもとにホームが対応できることについて丁寧に説明している。利用者、家族と相談しながら、希望に沿った終末期が送れるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	前年度ホーム内で消防署による救命講習を開催したが、それ以降は行っていない。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、消防避難訓練を行っている。毎回、想定を詳しく設定することで、非常時に対応できるように意識を高めている。訓練後は、参加職員で反省点や改善点などの意見を交換している。	年2回、夜間想定・通報訓練を含め避難訓練を実施している。避難訓練終了後は反省会をしている。災害時に備えて非常食や備品なども準備している。	昨今は想定外の災害も多く発生している。今後も引き続き、近隣の協力体制を得ながら、さまざまな災害を想定した訓練の実施が期待される。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者様一人一人の意見を尊重すると共に、皆様を人生の先輩として敬意を忘れず、親しい中にも礼儀を忘れない、節度ある対応を心掛けている。	普段から言葉かけには十分に気を付けており、スピーチロックにならないよう、一人ひとりを尊重する支援に努めている。職員間で話し合える環境があり、気になる対応があれば話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望を伺う事の他に、選択が困難な方には選択肢を絞って自己決定出来る環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全職員は入居者様最優先で業務に当たっている。必ず入居者様の意思を確認した上で介助を行うようにしている。コミュニケーションの難しい方でも、その方の思いが実現できるよう、日々職員同士話し合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様には、季節に合わせた好きな服を着て頂けるよう支援している。定期的に訪問理美容を呼び、散髪して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様のリクエストで献立を作成、毎食前には口腔体操後に献立を発表し、食事が楽しめるように工夫している。また、行事食を取り入れ、四季を感じて頂けるよう工夫している。	職員が利用者の意見を聞きながらメニューを決めている。旬の食材を使い、季節感が味わえるようにしている。利用者ができる範囲で、テーブル拭き、配膳、片付けなど職員と共におこなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様皆様が毎食全量摂取出来るように、個々に合わせた量の設定している。水分摂取量を計算し、一日の目標摂取量を満たせるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの介助、お声がけを必ず行っている。週に一度、訪問歯科で口腔ケアだけでなく、気になったことはすぐに相談できる体制が整っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下剤の調整、個々の排泄パターンを把握し、失敗を減らし、気持ちよく排泄できるように支援している。	排泄チェック表を使用し、利用者の表情や体調など様子を見ながら、可能な限りトイレで排泄をするように誘導をしている。おむつや紙パットは利用者の状況に合わせて使用をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者皆様には、毎朝牛乳を飲んで頂いている。水分摂取の少ない方には、好きな飲み物で対応し水分不足に注意している。10時、15時には体操に参加できるようにお声がけしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の体調やその時の気分に合わせて入浴介助している。	週2回、利用者の体調に配慮しながら入浴支援している。季節の菖蒲湯、ゆず湯や様々な入浴剤など使用し、入浴を楽しめるようにしている。入浴したくないという利用者には、言葉かけや足から順番に少しずつ入浴するなど方法を工夫しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた時にはどなたでもリビングのソファで休んで頂く事ができる。夜間は眠れない時は眠くなるまでリビングで一緒に過ごして頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は各ユニットに保管し常時確認出来るようにしている。服薬に関するマニュアルを作成し、職員全員が徹底するように指導している。薬剤変更時は申し送りすると共に、連絡帳で周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃から入居者様の特性に合わせ家事分担をし、その都度感謝の気持ちを伝える事で生活のハリに繋げている。四季折々の行事の準備にも参加して頂き、個々の得意な事で力を発揮して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様から希望があった場合はご家族様と相談し対応する事がある。また日頃から散歩や買い物に同行する機会も多い。	日々の生活の中で、季節の草花を見たり風を感じながら、近隣の公園やお店などに外出や散策ができるようにしている。今年度はコロナ禍で外出が限られているが、今後も外食やお花見、紅葉狩りなどを計画し、出かけられるように支援していくことを考えている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭の持ち込みはご遠慮頂いている。どうしてもという場合には、ご家族様と相談の上、お持ち頂くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が電話をかけたり、ご家族様からかかってきた際にお話頂く機会がある。今年度はビデオ通話も対応出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に職員も環境の一つと考え、ドアの開け閉めの音にも注意を払っている。また四季に合わせ掲示物を変えて、季節感を味わえるようにしている。	廊下やリビングは利用者の作品や季節の装飾を楽しめるようにしている。リビングにはソファも置いて、ゆっくり過ごせるようにしている。テラスにもテーブルといすが置かれており、日光浴や外気浴ができるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に長く入られている時は孤立しないようにお声がけしている。リビングでは気の合う方とお話し易いように座席配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使っていた筆筒など馴染みの物を置く事で、心地よく過ごして頂ける工夫をしている。	タンス、家族の写真、仏壇など、利用者が大切にしてきた品を持ってきており、安心して暮らせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室ドアに名札をつけ、居室が分かるようにしている。またトイレや風呂場にも表示をつけて、お一人でも迷わず向かえるように工夫している。		

【評価機関】